

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回4月のてがたんは、8月12日(土)で、「ヨシ原と沼のトンボ」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、8月6日(日)の9:30からです。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→藤棚→手賀沼遊歩道→けやき広場
- 観察日時と天気：2017年7月8日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：19人(大人16人、子ども3人)
- 市民スタッフ：6人 (古川克彌、湯瀬一栄、石原直子、木村稔、小泉伸夫、保田行弘)
※太字は今月の案内人
- 鳥博職員：2人 (齊藤安行・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ/カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ヨシゴイ(声のみ)/クイナ科：オオバン/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/メジロ科：メジロ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ/外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【昆虫・クモの仲間】

トンボ目：コシアキトンボ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、アジアイトトンボ/バッタ目：エンマコオロギ、マダラスズ(声のみ)、シバズ(声のみ)、キンヒバリ(声のみ)、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ヒシバッタ、クルマバッタモドキ/カメムシ目：ホソハリカメムシ、ニイニイゼミ(声のみ)、ツツジグンバイ/ハチ目：コアシナガバチ/チョウ目：キアゲハ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、アカボシゴマダラ、モンシロチョウ、モンキチョウ、サトキマダラヒカゲ、ツマグロヒョウモン、アオスジアゲハ、コムラサキ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ/コウチュウ目：ドウガネブイブイ、マメコガネ、コフキコガネ、オジロアシナガゾウムシ、オオヒラタヒデムシ/クモの仲間：コクサグモ、オニグモ、コガネグモ、ナカムラオニグモ、アシナガグモ、イオウイロハシリグモ

【両生類】

アカガエル科：ウシガエル/アマガエル科：ニホンアマガエル

【草の花】

ラン科：ネジバナ/アヤメ科：オオニワゼキショウ、ニワゼキショウ/ガマ科：ガマ/イグサ科：クサイ、ヒロハノコウガイゼキショウ/イネ科：コスズメガヤ、エノコログサ(変種：エノコログサ、ムラサキエノコログサ)、オオエノコログサ、セイバンモロコシ、マコモ、メヒシバ、オヒシバ、スズメノカタビラ、ニワホコリ、ナガハグサ、アメリカスズメノヒエ/ツユクサ科：トキワツユクサ、ツユクサ/キンポウゲ科：キツネノボタン/スミレ科：スミレ/トウダイグサ科：アカメガシワ、ニシキソウ、コニシキソウ、オオニシキソウ、エノキグサ/カタバミ科：アカカタバミ、ムラサキカタバミ、カタバミ、オッタチカタバミ/コミカンソウ科：ナガエコミカンソウ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ/バラ科：ノイバラ/ウリ科：カラスウリ/アカバナ科：コマツヨイグサ、アカバナユウゲショウ/アブラナ科：キレハイヌガラシ/ブドウ科：ヤブガラシ/ヒユ科：イヌビユ/ナデシコ科：ツメクサ、ノミノツヅリ/スベリヒユ科：スベリヒユ/タデ科：ミチヤナギ、アレチギシギシ/キキョウ科：ミゾカクシ/ハエドクソウ科：トキワハゼ/ヒルガオ科：ヒルガオ/アカザ科：ゴウシュウアリタソウ/キク科：オニタビラコ、ノゲシ、オオキンケイギク、ハキダメギク、ブタナ、ヒメジョオン、オニノゲシ

【虫こぶ】

ヨモギクキワタフシ

観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「歩道で生きるガッツな植物」でした。高温・乾燥という過酷な環境の歩道で生きる植物の特徴を観察しました。

歩道で観察した多くの植物は、熱帯から亜熱帯に分布し地面を這うタイプで、高温・乾燥に強い植物でした。また、地中は意外に温度や湿度が安定していて、スミレのように地中に根を張って生きている植物もありました。帰化植物も多く、在来の植物があまり利用しない環境に侵入している様子が観察できました。



今月の案内人 古川克彌さん



湯瀬一栄さん



②インド洋に浮かぶマスカリン諸島原産のナガエコミカンソウ。



③在来のスミレも歩道の縁でたくましく生きています。散布直前の種子と閉鎖花が見えます。



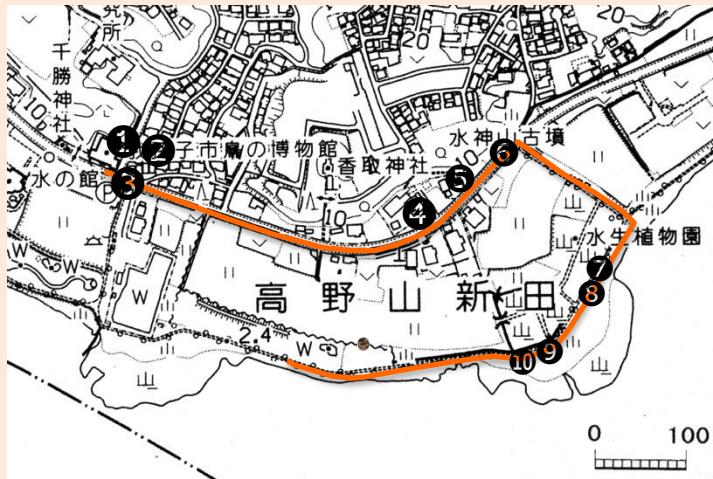
④オーストラリア原産の強雑草のゴウシュウアリタソウ。



⑤ニワホコリは、イネ科スズメガヤ属の植物で、同属のテフがエチオピアの主食インジェラの原料となっているお話は印象的でした。



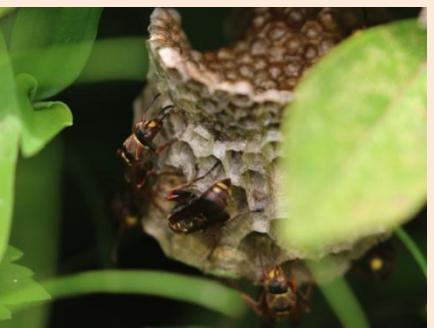
①北米原産の帰化植物のコニシキソウ。地上をはうように広がっていました。



歩いたルートと観察した生き物



⑥草地や湿地にすむ大型のクモ、イオウイロハシリグモが顔を出しました。



⑦コアシナガバチが生け垣に巣を造っている最中でした。



⑧イグサ科の植物ヒロハノコウガイゼキショウは、てがたんコースで初確認の植物でした。



⑨白いフェルトを巻いたようなヨモギクキワタフシは、ヨモギワタマバエによって作られたもの。割ると中に幼虫発見。



⑩春に花を咲かせていたナワシロイチゴが果実をつけていました。

今月の鳥 ムクドリ

スズメ目ムクドリ科

日本では、北海道の一部や南西諸島を除く各地で一年中見られる身近な鳥です。

芝生や農耕地など地上で採餌することが多く、歩行は両足を交互に繰り出すウォーキングスタイルです。地中に嘴を差し込んで開き、昆虫を見つけて食べます。Open bill probingと呼ばれるこの食事スタイルは、ムクドリに特徴的です。一方、果実も好んで食べます。消化できない種子をペリットとして吐き出すため、種子散布の役割を果たしています。

樹の洞に巣を造る鳥で、市街地では戸袋や橋脚の隙間などにも営巣します。また街路樹で集団ねぐらをとるため、大きな鳴き声と糞の落下は、人との軋轢（あつれき）の原因となる場合もあります。



上下の嘴を開くと、視界が開けて餌を探しやすくなる。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。